



試作した食器

平成26年3月5日(水)
あいち産業科学技術総合センター
常滑窯業技術センター 材料開発室
担当 山田、竹内
電話 0569-35-5151
愛知県産業労働部産業科学技術課
管理・調整グループ
担当 加藤(久)、山口
内線 3389、3388
ダイヤルイン 052-954-6347

常滑焼の伝統技法を現代的にアレンジしました

— 幅広い年齢層にアピールする食器類を開発 —

あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センターは、常滑焼伝統技法「彫り*1」を現代的にアレンジして採り入れた、幅広い年齢層にアピールする食器類を開発しました。常滑焼ならではの技法を用いて他産地の製品との差別化を図りながらも、シンプルかつカジュアルな柄を採用したことにより、伝統工芸士*2のような熟練技術者でない技術者でも生産でき、かつ、近代的な住宅における居住空間やライフスタイルともよく調和する製品となりました。

本開発成果については、平成26年3月12日(水)に当センターで開催される平成25年度研究成果発表会において詳しく発表します。

1. 背景

常滑焼には「彫り*1」、「のた絵*1」、「龍巻*1」など、他産地には見られない独自の伝統技法があります。それらを駆使して作られ、伝統的な絵柄で彩られた器は、高級感と荘厳な雰囲気を持っています。これらは常滑焼ならではの加飾方法であり、他産地と製品との差別化を図る上で有用です。

しかし、高度な技術が要求される、手間が掛かるなどの理由から、メーカー側にとっても気軽に取り入れることができないという問題がありました。また、市場では常滑焼の中でも高級品という位置づけにあり、より幅広い消費者にアピールできる製品の開発が求められていました。

そこで、常滑窯業技術センターでは、伝統技法を現代的にアレンジし製品に採り入れることで、現代の居住空間やライフスタイルにマッチした、幅広い年齢層にアピールできる食器類を開発しました。伝統工芸士のような、伝統技法に熟達した技術者ではない生産者にも生産できるよう、基礎的な技術だけで十分表現できる絵柄を採用しています。

2. 開発内容

開発した食器類の素材には、常滑地区で製造される2種類のきめ細かな粘土（いこみしめつち 鑄込締土*3、きそしめつち 基礎締土*3）をブレンドしたものを用いました。彫りを効果的に表現するためには、このようなきめの細かい粘土が必要です。このブレンド土に顔料を添加して色彩を調整しました。また、絵付けにも同じものを用いています。

成形と絵付けが終わったものを完全に乾燥させてから、印刀に似た刃物で絵柄を彫りました。

デザイン面では、伝統柄とは対照的なシンプルかつカジュアルな柄を採り入れ（写真1）、彫りについては、あまり高度な技法を用いず輪郭またはそれに準ずる単純な線画としました（写真2）。このため、従来の彫りを施した製品より安価で、また、近代的な居住空間ともマッチする製品となり、これまで彫りを施した製品を購入してこなかった消費者にもアピールするものとなりました。



写真1 シンプルかつカジュアルな柄



写真2 単純化した彫り

3. 波及効果

開発した食器類はシンプルかつカジュアルな柄であるため、絵付け、彫りの作業は伝統的な柄に比べて容易なものになっています。このため、彫りの導入をためらっていたメーカーでも採用することが可能となり、常滑焼ならではの製品を作ることが可能となります。また、伝統的な製品を作ってきたメーカーにとっても、製品のバリエーションが増えることで生産品目、生産量の増加が期待できます。

今回の開発をきっかけとして、各企業において新製品開発が促進され、地域全体の活性化に繋がることを期待されます。

4. 今後の予定

常滑窯業技術センターが開催する下記の成果発表会において、本開発成果の発表を行うとともに、試作した食器類を展示します。

＜平成25年度研究成果発表会＞※平成26年2月13日記者発表済み

- ・日時：平成26年3月12日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
- ・場所：あいち産業科学技術総合センター 常滑窯業技術センター 講堂
(常滑市大曾町4-50)
- ・参加費：無料

- ・ 申込方法：参加申込書により FAX、電子メールまたは電話でお申込みください。
申込書は、あいち産業科学技術総合センターのホームページ
(<http://www.aichi-inst.jp/>) からダウンロードできます。

5. 問い合わせ先

あいち産業科学技術総合センター常滑窯業技術センター
材料開発室 山田、竹内
電話：0569-35-5151 FAX：0569-34-8196

【用語解説】

*1 「彫り」、「のた絵」、「龍巻」

常滑焼には様々な伝統技法があります。器の表面に絵柄や文字を彫りこんだ「彫り」、粘土に顔料を混ぜて水で溶いた絵具を用いて絵を描く「のた絵」、龍などを粘土でレリーフ状に薄く作ったものを器に貼り付ける「龍巻」などは、常滑焼を代表する伝統技法です。

*2 伝統工芸士

伝統工芸士とは、伝統的工芸品産地において伝統的技術・技法に熟練した従事者の中から、伝統的工芸品産業振興協会が行う認定試験に合格した者に対して与えられる称号です。高度な技術と知識を持つと同時に、伝統的工芸品の普及や伝統的技術・技法の継承のため、産地で活躍しています。

*3 鑄込締土、基礎締土

いずれも常滑地区で製造されている粘土の一種で、陶器と磁器の中間的な性質を持つ「せつ器」に分類される、特徴的な素材です（表）。

表 陶器、磁器、せつ器の特徴

	陶器	磁器	せつ器
透光性	なし	あり	なし
吸水性	あり	なし	なし

一般家庭で使われているやきものの大半は磁器に分類されます。「せつ器」に分類されるものは、常滑焼の他、日本では備前焼の一部、世界的には中国の宜興、イギリスのウェッジウッド等があります。

※備前焼…岡山県備前市周辺で生産される陶器、せつ器を使ったやきもの。

※宜興…中国江蘇省の市。明の時代から凝った茶器を手作りで生産してきた。

※ウェッジウッド…主に高級食器を生産する世界最大級の陶磁器メーカー。